わかっているから。

樹侑

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
わかっているから。

【Ｎコード】
Ｎ３９７３Ｄ

【作者名】
樹侑

【あらすじ】
もどかしさも、悔しさも、嬉しさも、きっと君が、一番よくわかってるんだね。

冬休みに入る前の
最後の月曜日。

重い体を引き摺る様にして階段を上る。
あと5分で授業が始まってしまうせいか、周りの人は早足で階段を上って行く。
そんな気力も無いあたしは、ノロノロと、手摺に半ば寄り掛かりながら歩く。

「ようやく…2階。」

あたしの教室は3階。
頭がガンガンする。

昨日、先輩達が引退して、初めての大会が終わった。
アンサンブルの大会で、あたしはサックス6重奏のチームリーダーになっていた。
65チーム中15チームが県大会に進むことが出来る。
もちろん、県大会を目指していた。
しかし、結果は16位。
15位のチームとは、その差1点…。

そんな漫画みたいなことがあるのか…と思う前に、涙が溢れて来て、廊下で泣き崩れてしまい、それこそ顧問の先生が血相変えて飛んでくる程だった。

そして、昨日まで、土日も祝日もなく練習して、家でも毎日夜遅く

までスコアと睨めっこして曲想を読んでいた疲れか、それとも思いもしない結果へのショックか、今朝から体調を崩してしまった。

「あと一階だけ…。」

早く行かなきゃ、遅刻しちゃう。
手摺に手を掛けた瞬間…。

「おい。」

背後から、誰かに声を掛けられた。
振り返ったら、あいつがいた。
飛行機乗り志望の、あいつが。

「昨日だったよな、大会。」
「うん。そうだよ。」
「…どうだった？」
「１６位。ダメだった。」
「そうか。」

あいつはそう言うと、じっと考え込んだ。
何も言わないから、もう行ってしまおうかと思って、回れ右を仕掛けたら、突然顔を上げて

「良かったな。」

と、言い出した。

「何が？！どこが？！」

良い訳ないじゃん。
目標達成出来なかったのに？
それで何が良いって言うの？

そんな疑問が渦巻いていた。

「だって、６人中４人１年生だろ？で、そのうち初心者３人だろ？
それなのに、そういう順位を出せるってことはさ、素人集団をそのレベルまで引っ張り上げれたってことじゃないか？」

確かにそうだ。
今年の１年生にはサックス経験者がほとんどおらず、４人中３人が初心者なのだ。
しかも２年生は２人しかおらず（これはあいつが退部したせいでもあるが…）これで大会に出られるのか？と、当事者も周りも顧問も正直疑問だったのだ。

「まあ…そうなる…かな？」
曖昧に頷くと、だろ？って、あいつは笑った。

「みんな、上手くなったか？」
「うん。音量も出るようになったし。」
「そうか。じゃあ、次の夏が楽しみだな。」
「うん。」

嬉しかった。
こんな風に褒めてくれる人、いなかったから。
じんわりと、目頭が熱くなる。

「……。」

ありがとう、と言おうとした途端、無機質なチャイムが鳴り響いた。

「うぉっ！！やべぇ、またな！！」

あいつはそう言い残すと、猛ダッシュで教室に駆け込んで行った。

…あたしもやばい！！

階段を一つ飛ばしで駆け上がる。

まだ少し頭が痛いけど、きっと今日は平気だ。

チャイムが鳴り終わるギリギリで教室に滑り込み、席に着く。

鞄から教科書やらノートを取り出して、ほぉっと息を吐く。

そして、誰にも聞こえないように、口の中に残ったままの言葉を吐き出した。

―ありがとう。

（後書き）

吹奏楽部短編第2号です。
登場人物は変わりません（笑
しかも、かなり時間飛んでます。
すみません。

ちなみに、これは作者自身の周りにいる人間をモデルにして書いてます。

作者がサックスのアンサンブルで大会に出て、あと一歩の所で県大会を逃したのは事実です（泣

これからは夏に向けて、助走ですね。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3973d/

わかっているから。

2010年10月16日23時07分発行